

**湘南藤沢学会 「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」 成果報告書**  
**名学術書 100 選メディアデザインプロジェクト**

プロジェクト責任者  
総合政策学部 1 年 柏野尊徳  
[s10194tk@sfc.keio.ac.jp](mailto:s10194tk@sfc.keio.ac.jp)

## 1：活動の概要

目的：ネットメディアを活用した「学びのとびら」という学術書紹介番組の放送を通じた、効果的なメディアデザインと読書文化への貢献

日時：20101年3月4日15:00～5日10:00

場所：近江屋旅館（〒250-0312 神奈川県足柄下郡箱根町湯本茶屋 116）

参加人数：6人

## 2：参加者一覧

総合政策学部 1 年 柏野尊徳  
環境情報学部 1 年 太田知也  
環境情報学部 1 年 吉中貴史  
総合政策学部 1 年 御手洗拓真  
総合政策学部 1 年 田村佳世  
総合政策学部 1 年 西久保有里

## 3：ミーティングの目的

今回のミーティングでは、ネットメディアの長所であるアーカイブ性や伝播力を用いて、今まで読書へ興味をもたなかった人々に読書の魅力を伝えられるような、効果的なメディアデザインに関する議論を目的とした。具体的には以下の通りである。

- (1) 月に一度行なっている読書会において提出された論点や書評の成果をまとめる。
- (2) 先の成果を反映するために Ustream 上放送した学術書表番組の振り返り検討を行なう
- (3) 上記 2 点を踏まえた上で、今後どのような形のメディアデザインがありうるかを検討する

## 4：実際に行われたミーティング内容

### ● これまでの活動の振り返り

ネットメディアを活用した「学びのとびら」という学術書紹介番組の放送を通じた、効果的なメディアデザインの研究と読書文化への貢献

以上の引用は、今回の合宿に際して、「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の申請書に記した、本研究の目的である。申請当時から時間が経っており、活動内容が

変化してきている現状を鑑みて、先の引用をパラフレーズするとともに最も抽象的なレベルでの目的意識を取り出したい。

#### ● 本活動が目指していたものとその実際

すなわち、学術的ではない方法を以てして、学術的な興味を広く喚起すること、これである。このような目的を実現すべく、合宿実施以前の段階において本団体は、Ustream という動画配信コンテンツを用いて学術書の紹介番組を放送し、普段読書に馴染みのない大学生を対象として学術的な興味を喚起することを目指していた。

目標達成のために、まずは自分たちが学術書に慣れ親しむことを念頭に置き、月1回のペースで読書会を行った。そして、読書会で取り上げた学術書に関して各自が書評を書き、メンバー同士でコメントし合いながら書評をブラッシュアップしていった。

#### ● 振り返りの中で明らかになった活動そのものの困難

しかしながら——活動をすすめていく中で判明してきたことであるが——読書文化の定着を定量的に測定することの困難に直面した。具体的には、どのように読書文化の促進に寄与したのか客観的に判断することが難しいことがあげられる。客観的評価がそのものが難しいければ、読書会及び書評執筆が主観的な趣味の範囲で行われうる可能性は十分にある。

そのような状況から生み出された成果物を動画コンテンツ上で利用することは適切であろうか。このように、効果測定面でこれまでの方法で活動を継続することにも疑問を持ち始めた。また、番組構成等の点においても方法論的な困難が生じていることが明らかとなった。

#### ● 反省を踏まえてプロジェクトの解散を決定

以上の結果から、本プロジェクトを一旦解散させ、私たちが本当に貢献可能な活動の在り方を各自で考える時間が必要であるとの結論に至った。もちろん、継続そのものに意義を見出すことは可能であるが、続けることそのものが目的になる恐れもあり、いったん線を引くことが妥当であると判断した。

今後は、新たに研究プロジェクトに関わる人や研究プロジェクトを立ち上げようとしている学生に対して今回の経験共有を意識的に行えればと願う。そのことが、今後SFCで行われる研究ネットワークづくりをよりよくする方向に少しでも寄与できれば幸いである。

## 5: 謝辞

本活動に対する助言を頂きました慶應義塾総合政策学部・堀茂樹教授、円滑な会議運営と快適な宿泊環境をご提供頂いた近江旅館の方々、ならびに湘南藤沢学会のご担当者様および「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援に対して改めて感謝申し上げます。